



赤外線を効率よく反射することで
屋根の温度上昇を抑えます。

RS

ルーフ2液F

弱溶剤2液形フッ素樹脂屋根用遮熱塗料

ルーフ2液Si

弱溶剤2液形シリコン樹脂屋根用遮熱塗料

リフォーム
サミット店

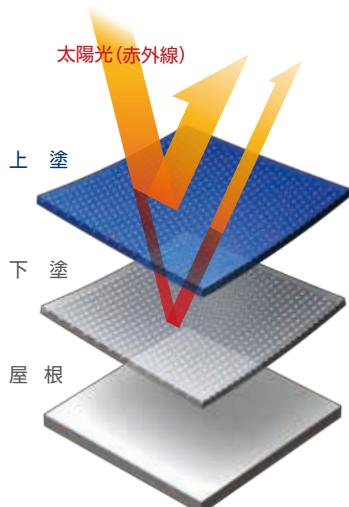
Supported by KANSAI PAINT

RSルーフ2液F RSルーフ2液Si

1 優れた遮熱効果

赤外線を効率よく反射する特殊な顔料を配合した塗料を2段階に分けて塗付します。

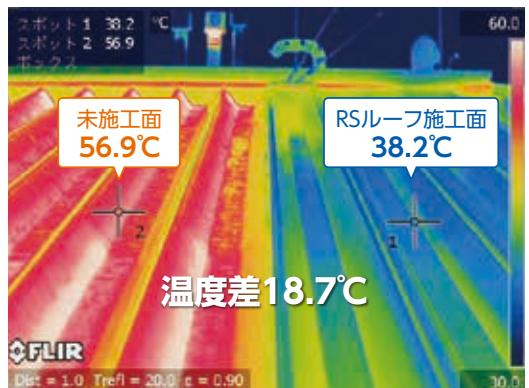
上塗を透過した一部の赤外線も下塗塗料でしっかりブロックし、屋根の温度上昇を抑制。最大-20℃の遮熱効果を発揮します。



関西ペイント小野事業所での試験結果

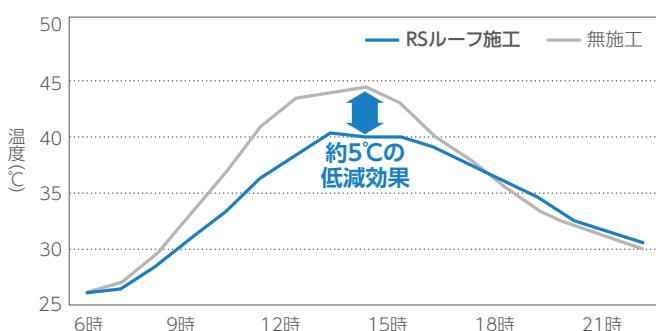
太陽光を効率よく反射し、熱を遮る

RSルーフ(右半分)と一般的な屋根用塗料を塗装した物件

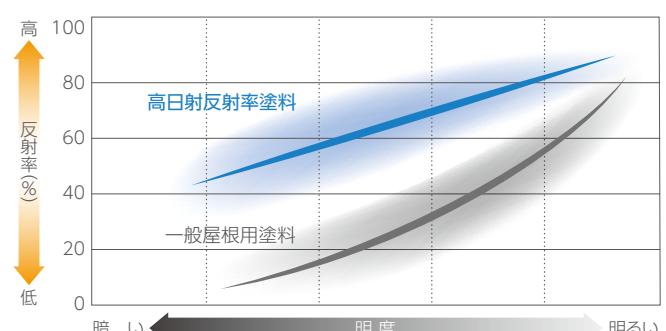


赤外線サーモグラフィ画像

室内温度 天井より約50~100cm下の温度を測定



塗膜の明度と日射反射率の関係



窯業系屋根材の適用範囲

RSルーフ3工程仕様は、表面劣化度(中)までの窯業系屋根材に適用できます。

表層劣化が進行した表面劣化度(大)の場合、下塗にヤネ強化プライマーEPOを使用し脆弱層を強化後、アレスクールシーラーを塗装してください。

表面劣化度(小)

【目安】

新設後、又は塗替え後10年程度経過した屋根材

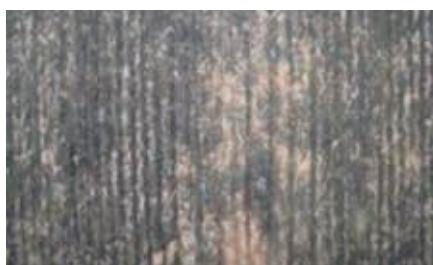


塗膜の剥がれ等が部分的に認められるが、下地は健全な状態。

表面劣化度(中)

【目安】

新設後、又は塗替え後10~15年経過した屋根材



塗膜の剥がれは(小)より認められるが、下地は健全な状態。

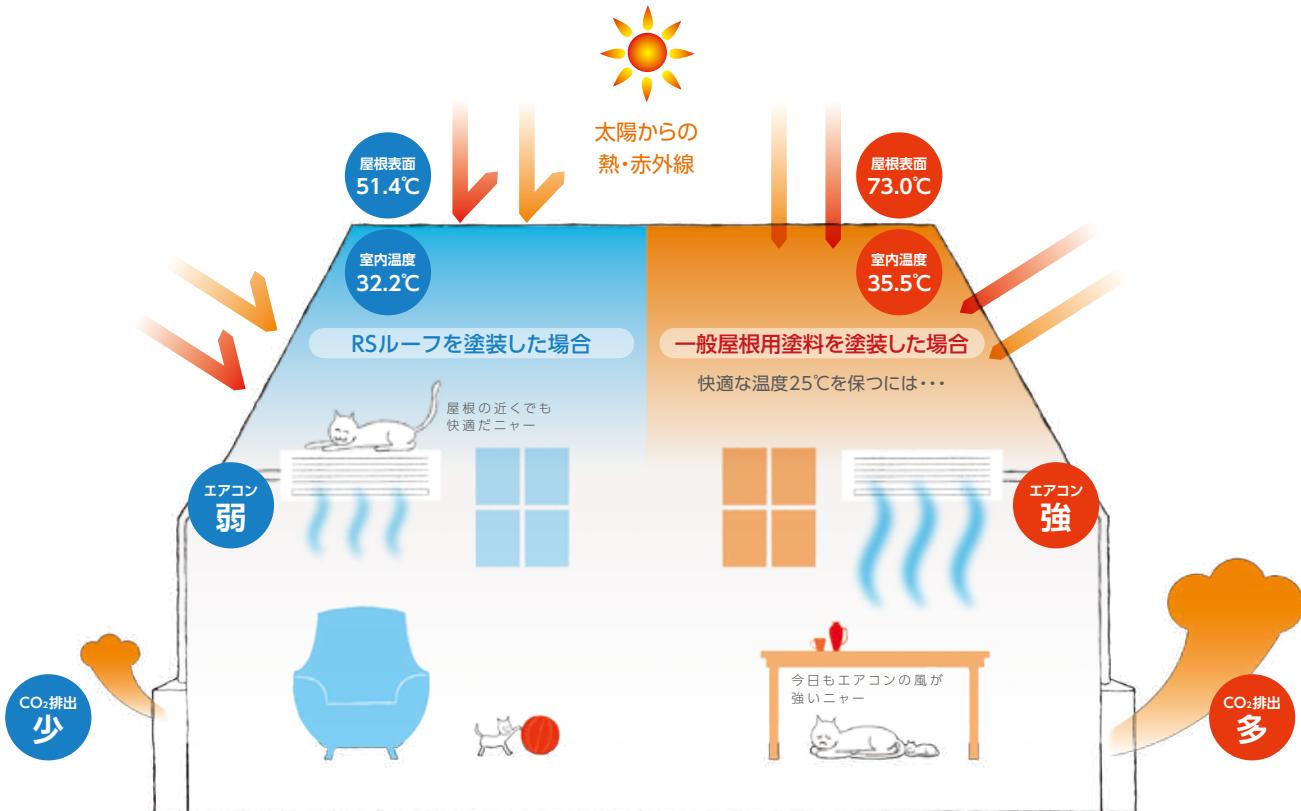
表面劣化度(大)

【目安】

新設後、又は塗替え後15年以上経過した屋根材



全体に塗膜の剥がれが見られ、下地表層は脆く、吸込みが大きい状態。



※SMASHver.2[（財）建築環境・省エネルギー機構]で計算。設定値、屋根素材：鋼板0.4mm/合板12mm/通気層30mm/押出法ポリエチレンフォーム3種50mm/合板12mm、屋根面積:150m²、室内容積:312m³、床面積:104m²、冷房稼動時間:8~17時(年中)、室温が25°Cを超えた場合にエアコンが稼動すること。(設定温度:25°C、地域:東京)※アレスクールはコーヒーブラウン色を使用。

■ 塗料性状

	RSルーフ2液F	RSルーフ2液Si
荷姿	15kgセット (ベース/硬化剤=13.5kg/1.5kg)	15kgセット (ベース/硬化剤=13.5kg/1.5kg)
混合比	ベース/硬化剤=9/1	ベース/硬化剤=9/1
色	標準色	標準色
艶	艶あり	艶あり
仕上り感	平滑	平滑
塗料比重	1.21(ホワイト)	1.19(ホワイト)
溶剤比重	0.84	0.82
加熱残分	63%(ホワイト)	63%(ホワイト)
劇物表示 (品名・含有量)	—	—
労安法上の 表示有害物	ベース:キシレン エチルベンゼン メチルイソブチルケトン	ベース:キシレン エチルベンゼン
有機則/特化則	ベース:特別有機溶剤等 (特化則適用) 硬化剤:第3種有機溶剤等	ベース:特別有機溶剤等 (特化則適用) 硬化剤:第3種有機溶剤等
消防法による 危険物区分	ベース:第4類 第2石油類 (非水溶性) 硬化剤:第4類 第2石油類 (非水溶性)	ベース:第4類 第2石油類 (非水溶性) 硬化剤:第4類 第2石油類 (非水溶性)
硬化剤の 成分による区分	イソシアネート	イソシアネート

※上記の数値は標準を示すもので、若干の変動があります。

■ 塗装条件

	RSルーフ2液F			
塗装方法	金属系素材 ハケ ローラー	金属系素材 エアレス スプレー	塗業系素材 ハケ ローラー	塗業系素材 エアレス スプレー
希釈率	0~10%	0~10%	0~10%	0~10%
標準所要量(kg/m ² /回)	0.12	0.16	0.22	0.28
希釈剤	塗料用シンナーA			

※標準所要量は、個々の条件によって異なります。 ※標準所要量は、塗装作業に必要な使用量の数値です。

	RSルーフ2液Si			
塗装方法	金属系素材 ハケ ローラー	金属系素材 エアレス スプレー	塗業系素材 ハケ ローラー	塗業系素材 エアレス スプレー
希釈率	5~15%	5~15%	5~15%	5~15%
標準所要量(kg/m ² /回)	0.12	0.16	0.22	0.16
希釈剤	塗料用シンナーA			

※標準所要量は、個々の条件によって異なります。 ※標準所要量は、塗装作業に必要な使用量の数値です。

■ 塗装間隔

項目	温 度		RSルーフ2液F	RSルーフ2液Si
	標準塗装 間隔	最 短	4時間	4時間
最 長		7日	7日	7日
使用时限		8時間	8時間	8時間

施工上の注意事項

- ①遮熱性能は色合いによって異なります。
②標準所要量は一般的な条件での塗装作業に必要な塗料の参考値です。従って被塗物の形状や塗装条件などによって増減します。
③開缶時および容器に移し換えたときには色が分離したり、沈降している場合がありますので、使用前に十分攪拌してください。
④弱溶剤型の塗料を開缶した後に貯蔵する際は、水分に注意し、密封してから冷暗所に保管してください。
⑤高温(40℃以上)、低温(-5℃以下)での塗料保存は避けてください。
⑥錆が発生している箇所などはワイヤーブラシ・サンドペーパー等で完全に除去してください。
⑦下地調整が不十分な場合は、塗膜の剥れ・割れ・剥がれの原因となったり、光沢が出ないもしくは艶ムラが発生するなど仕上り不良が生じる恐れがあります。ホコリ・油・樹液などは塗装前に溶剤拭き・水洗い(温水)等で十分に除去し、乾燥した清潔な面にしてください。特にトタンの折り曲げ部はホコリ・砂等が溜まやすいので入念な清掃を行ってください。
⑧高圧洗浄を行うと屋根が滑りやすくなりますので、足場には十分注意してください。
⑨洗浄後、新生瓦の破損、役物の釘浮き、シーリング切れなどのチェックを行い、補修が必要な場合には適切な処理を行ってください。
⑩低温・多湿時に塗装し、未乾燥状態で夜露等にあたると艶引けが生じることがあります。
⑪強風時や陣雨の予想される日の塗装、および気温が5℃以下、湿度85%以上となる日の塗装は避けてください。
⑫塗装後、降雨や結露などで白化した場合には目粗しを行って、再度塗装してください。
⑬昼夜の温度差が激しい時期は、結露による艶引け現象が発生しやすいため、時間を考慮して塗装を行ってください。
⑭他の塗料との混合は絶対に避けてください。
⑮水性塗料を塗装する場合は、ナイロン刷毛を使用してください。獸毛刷毛は刷毛固まりを起す場合があります。
⑯弱溶剤系塗料の希釈は必ず「塗料用シンナーA」を使用してください。ただし、市販の塗料用シンナーの中には適合しないものもありますので注意してください。
⑰「アレスクールプライマー」、「アレスクールシーラー」、「RSルーフ2液F」、「RSルーフ2液S」はベースと硬化剤がセットになっている2液形の塗料です。所定の割合(重量比)で混合して、十分攪拌した後にご使用ください。また、調合した塗料は、必ずその日のうちに使用してください。長時間経過した塗料を塗装した場合、塗膜性能が低下します。
⑱使用した塗装用具の洗浄にはラッカーソンナーを使用してください。
⑲品質が保持する塗膜性能を十分に発揮させるために、所定の塗り回数と膜厚確保による施工を行ってください。特に上塗1回塗りでは十分に発色・艶べいしない場合や、遮熱・塗膜性能が発揮されない場合がありますので必ず2回塗りを行い、標準塗装仕様を守ってください。
⑳過希釈による施工は、剥離・仕上り不良・色分かれの原因となりますので所定の希釈率を厳守してください。
㉑塗装後、スケや塗り残しがある場合は、補修塗りを行なうか再度全面塗装してください。
㉒有機溶剤を使用しているため施工・保管には十分注意してください。

ご使用上の注意事項

- 下記の注意事項を守ってください。詳細な内容については安全データシート(SDS)をご参照ください。
- 取り扱い作業中・乾燥中ともに換気のよい場所で使用し、粉じん・ヒューム・ガス・ミスト・蒸気・スプレーを吸入しないこと。必要な保護具(帽子・保護めがね・マスク・手袋等)を着用し、身体に付着しないようにすること。
吸入に関する危険有害性情報の表示がある場合、有機ガス用防毒マスク、又は、送気マスクを着用すること。又、取り扱い作業場所には局所排気装置を設けること。
皮膚接触に関する危険有害性情報の表示がある場合、頭巾・えり巻きタオル・長袖の作業着・前掛を着用すること。
火気を避けること。静電気放電に対する予防措置を講ずること。
火災を発生しない工具・防爆型の電気機器・換気装置・照明機器等を使用すること。
裸火又は高温の白熱体に噴霧しないこと。
本来の目的以外に使用しないこと。
指定材料以外のものとは混合(多液体の混合・希釈等)しないこと。
缶の取っ手を持って振ったり、取っ手をロープやフックで吊り下げたりしないこと。
取り扱い後は、洗顔、手洗い、うがい、及び、鼻孔洗浄を十分行うこと。
使用済みの容器は、火気、溶接、加熱を避けること。
本品の付いた布類や本品のかす等は水に浸して処分すること。

- ㉓積雪の加重を最も受けやすい軒先部分、瓦棒の凸部、はぜ部にはこすりつけるように増し塗りを行ってください。
㉔エアレス塗装を行う場合は、塗装ミストの飛散防止のために十分な養生を行ってください。
㉕エアレス塗装を行ったのちにハケ・ローラーで補修塗りを行うと、補修箇所の色相が異なることがありますので、ハケなどで補修塗りを行う場合は事前に行ってから全体にエアレス塗装を行ってください。
㉖塗ビ鋼板の塗り替えでは、下塗り塗料に白色の「エボマリンGX」または「エスコ」をご使用頂き、標準塗装仕様にて塗装してください。
㉗トタン素地露出部は「アレスクールプライマー」または、「アレスクールメタルプライマー」で補修塗りを行い、その後標準塗装仕様で塗装してください。
㉘スノーダクトのような勾配のほとんど無い屋根の塗り替えは、高い耐水性能を要求されるため必ず標準塗装仕様を遵守してください。また、波水部への適用は避けてください。
㉙下塗りにJIS K 5629 鉛酸カルシウム錆止め塗料は絶対に使用しないでください。
㉚ガルバリウム鋼板は素材自体が遮熱性と熱放射性に優れています。一般塗料に比べ「RSルーフ」は遮熱効果を発揮しますが、素材自体と比較した場合、それほど遮熱効果は期待できませんのでご注意ください。
㉛ガルバリウム鋼板屋根の塗り替えは下記の要領で行ってください。
　　ケース1[[旧塗膜がある場合]:旧塗膜の付着が健全であることを確認の上、目粗しを行い、標準仕様で塗装してください。
　　ケース2[[旧塗膜がない場合]:ガルバリウム鋼板表面には化学処理等が施されている場合があり、特に新設時には塗料の付着性が著しく劣ることがあります。(尚、化学処理は経年で流れ落ちるため、塗装適性は向上下します)そのため事前に「アレスクールプライマー」を試験塗装し、ガムテープで付着性が良好なことをご確認の上、塗装仕様に基づき施工してください。付着が良くない場合は、使用しないでください。
㉜洋風コンクリート瓦(モニエル瓦など)、粘土瓦(いぶし瓦、釉薬瓦など)には塗装できませんので、ご注意ください。
㉝窯業系屋根材は金属系屋根材に比べ、素地への吸い込みが生じやすくなります。窯業系屋根材を塗装する際には、下地の状態を確認し、下塗の吸い込みが著しい場合には、再度下塗を塗装して表面が濡れ色になることを確認してください。
㉞窯業系屋根材に付随する金属部分については金属系屋根材の標準塗装仕様で塗装してください。
㉟シーリング面への塗装は極力避けください。汚染や枯瘍、フレの原因となります。
㉟汚れ、傷などにより補修塗りが必要な場合がありますので、使用塗料の控えは必ず持っておき、同一塗料、同一ロット、同一塗装方法で補修塗装をしてください。
㉟塗装後、水切り部で住宅用スレート(カラーベスト、コロニアルなど)の重なり部分が塗料で詰まつた場合には、皮さきなどで必ず縁切りを行なってください。瓦の上下に隙間がないと通気が不十分になり、結露水などの影響により漏水や素材の腐食、塗膜剥離、膨れなどに繋がる恐れがあります。
㉟既に雨漏りのある場合は塗装を施しても直りません。雨漏りには構造上の原因を追及し、対策をとることが必要となりますのでご了承ください。
㉟「アレスクールメタルプライマー」は窯業系屋根材には塗装できませんので、ご注意ください。
㉟「アレスクールプライマー」は「アレスクールメタルプライマー」に比べ、高い反射率を有しています。

予
附
筆

- 目に入った場合:直ちに、多量の水で洗うとともに医師の診察を受けること。
皮膚に付着した場合:直ちに拭き取り、石けん水で洗い落し、痛みや外傷等がある場合は、医師の診察を受けること。
対応
吸入した場合:空気の清浄な場所で安静にし、必要に応じて医師の診察を受けること。
飲み込んだ場合:直ちに医師に連絡すること。無理に吐かせないこと。
漏出時や飛散した場合は、砂、布類(ウエス)等で吸い取り、拭き取ること。
火災時には、炭酸ガス、泡、又は、粉末消火器を用いること。
保管
指定容器を使用し、完全にふたをして湿気のない場所に保管すること。直射日光、雨ざらしを避け、貯蔵条件に基づき保管すること。子供の手の届かない場所に保管すること。又、関連法規に基づき適正に管理すること。
廃棄
本品の付いた布類や本品のかす、及び、使用済み容器を廃棄するときは、関連法規を厳守の上、産業廃棄物として処分すること。(排水路、河川、下水、及び、土壌等の環境を汚染する場所へ廃棄しないこと。)
施工後
本製品は揮発性の化学物質を含んでいますので、塗装直後の引渡しの場合は、施工者に対して安全性に十分に注意を払うように指導してください。
安全
例えば、不特定多数の方が利用される施設などの場合は、立看板などでベンキ塗り立てである旨を表示し、化学物質過敏症ならびにアレルギー体質の方が接すことのないようにしてください。